

地球市民へ!

地域づくりは人づくり、
学びから未来へ



現場から学ぶ!

学び合いの場づくり
ワークブック



地域づくり



企業研修



生涯学習



中部地方ESD活動支援センター
SDGs社会教育研究会WG



SDGsは待ったなし! 今大切な 未来のための人づくり

地元を良くしたいと考えている皆さん。地域づくりは人づくりから始まります。そのとき大切なキーワードが「ESD」と「SDGs」。「なんか巷ではやっているSDGs。関係あるのかなあ。勉強会が必要かなあ。なんか教育現場でESDとも言っているなあ」——そんなとき、このワークブックはきっと役に立ちます。

ESDってなんだろう?

SDGsのための人づくりってなんだろう?

そんな基本的なことから、

何を目標にするんだ?

どんな分野があるんだ?

どんなやり方があるんだ?

どんな人を呼べばいいんだ?

実際に何をすればいい?

それで役に立つのか?

といった実践的なことまで、考えるヒントが満載です。



いろいろな場面で悩みはさまざまです

CSRの担当を社長から命じられたんだが、SDGsとかが流行らしい。何をすればいいのかわからない。社長が喜ぶことだとすると、うちはこんなことをやっている素敵な会社なんだと周りに言いつつ、それとなく営業することか。

そういえば、経理が「電気代が高くなりすぎて将来が心配だ」とこぼしていたな……。

製造業総務部門勤務
榎本さん(45才、仮名)



学びの目的

SDGsから企業経営を見直し、地域への貢献のあり方を考える

予算もないのに何をやれっていうの。だいたい生涯学習講座なんて誰も来ないわよ。

うちの施設を活かして言うけど、人が集まってこそでしょう。どうせなら意味のあることやりたいし……。

福祉協議会勤務
西野さん(29才、仮名)



学びの目的

「わがこと、まるごと、の地域づくり」を高い視点から理解する

ESDとSDGs

ESD Education for Sustainable Development
(持続可能な開発のための教育)

SDGs Sustainable Development Goals
(持続可能な開発の到達目標)

ESDは、2002年の「持続可能な開発に関する世界首脳会議」で日本が提唱した考え方です。同じ年に「国連持続可能な開発のための教育の10年」が国連総会で採択されて以降、国際的に取組まれてきました。世界の人々が未永く幸せに暮らせる社会を作るための人づくりです。

SDGsは2015年9月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。

すなわち、住み続けられるよりよい地球社会の目標がSDGsであり、そうした地球社会を担う人づくりがESDということになります。

持続可能な社会に向けた(SDGs)、人づくり(ESD)という関係があるといえます。



学びの目的は何でしょう？

最近会合への集まりが悪くて困ったもんだ。ごみの出し方のルールの問題もあるし、通学路の安全指導会の件もあるし、問題は山積みだというのに。昔はこの地域も住みやすかったものだが、

将来どうなることか。なんか大学の先生とやらが勉強会をやりましようと言ったが、はて……。

農業・自治会役員
平田さん(72才、仮名)

学びの目的

立場や世代の違いを超えた地元への共感を育む

CONTENTS

人づくりのためのヒント

P4

「学び合いの場」を作ろう!

P5

楽しいがいちばん! 企画の糸口を見つけよう!

自分たちが楽しむ!

外に出てみる!

話し合いから気づく!

ゲームで学びを遊ぶ!

P6

具体的な企画を考えてみよう!

テーマ、人さがし、

プログラム、人あつめ

P7

実際に始めるために

「人」「もの」「こと」「金」が必要
学び合いの場づくり 企画ワークシート

P8

“楽しい”学びの企画と実践

事例1 海岸ごみからSDGsを考える

事例2 食から気候変動を考える体験学習

P10

学びを盛り上げる素敵な方法

方法1 気候変動ミステリーワークショップ

方法2 脱炭素まちづくりジグソーワークショップ

方法3 グラレコを使ったSDGsトークカフェ

方法4 共通様式を使ってオンラインSDGs交流

P11

学習効果を測定するには

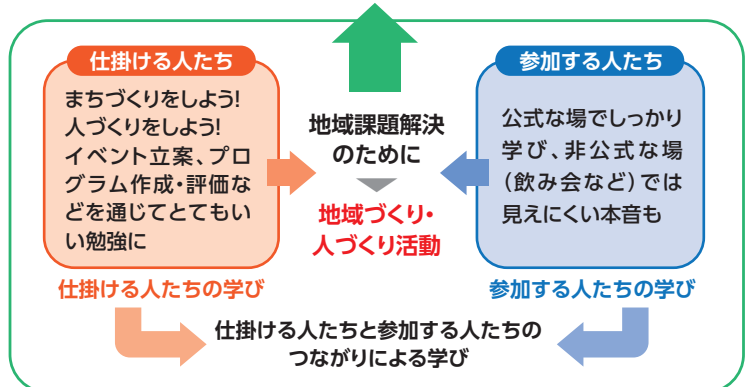
「学び合いの場」を作ろう!

地域を「つくる」ことは、人づくり、すなわちESDから始まります。地域づくりの活動(まちづくりイベントなど)はそれを仕掛ける人たちにとっても大きな学びの場となります。もちろん参加する人たちにとっても大きな学びの場であることはいまでもありません。また、それだけでなく、仕掛ける人たちと参加する人たちとの出会い、これもつながりによる特別な「学び合いの場」となるのです。

つまり、地域づくりの活動とは、関係者の特別な「学び合いの場」を作ることです。地域の課題を解決していくために、地域の「人」が磨かれるために、「学び合いの場」を作っていきます。

地域づくり(SDGs)は人づくり(ESD)

目指したい地域のビジョン、人のビジョン



地域づくりは人づくりから、すなわちSDGsはESDからです。そこでは地域づくり活動を仕掛ける人、参加する人、みんなが学び、学び合い、地域の課題解決に向けて「人」が磨かれていくことが大切です

楽しいがいちばん! 企画の糸口を見つけよう!

座って退屈な話を聞くことにあなたは耐えられますか? 人は「楽しい!」「おもしろい!」と思ったときに最も学びの力が高まります。自ら「おもしろい」ことを求めていけるような組み立てが必要です。それは「対話」かもしれません。「観察」なのかもしれません。「調べること」や「議論」を組み込むことかもしれません。「ゲーム」だっていいんです。

自分たちが楽しむ!

仕掛ける人たちが楽しい!と思うイベントを企画しましょう。そのためには参加者に「楽しい!」と思ってもらうことが何より大切です。楽しんで作り上げた「学び合いの場」で参加者に楽しんでもらえたら…絶対「楽しい!」



外に出てみる!

百聞は一見に如かず。学びの種は「まち」や「里山」、家の「近所」にもころがっています。草むしりやゴミ拾いにも新たな発見があります。たくさん歩いて、体を動かして、みんなとおしゃべりしたら…絶対「楽しい!」



話し合いから気づく!

受験勉強は一人だからつらいんです。あるテーマで他の人と話し合ったり一緒に何かを作ったりしたら、それだけで楽しいですよ。そしてある時、目から鱗が落ちることがある。話し合いから気づきが生まれる体験は…絶対「楽しい!」



ゲームで学びを遊ぶ!

イベントにゲームの要素を取り込むとテンションが上がります。大人も子どももゲームが大好き。スタンプラリー、クイズ、カードゲームなど、これらを通じて新たに知ったり、考えたり。遊びながら学べたら…絶対「楽しい!」



具体的な企画を考えてみよう!

さあ始めよう! テーマ、人さがし、プログラム、人あつめ

●最初に考えること●

学び合いの場づくりの目標は何ですか?
どんな人に参加してほしいですか?

企画を考える上で一番大切なのは、この二つです。予算や会場などの制約はありますが、イベントの目標と参加者像を明瞭にすることが重要です(上司への説明のためにも!)

●企画を具現化するために●

学びの目標と参加者像が決まったら、テーマやプログラムを考え、それに必要な人を見つけていきます。

テーマ

分野はどこからでも
SDGsですべてはつながる

イベントの題材は何を取り扱っても構いません。現代社会の課題を扱えば持続可能性の問題を避けて通ることはできないからです。SDGsの17のゴールがすべての分野をカバーしていることからわかります。できれば具体的なテーマから掘り下げたり広範囲の分野と関連させたりすると興味が広がります。



人さがし

専門家を頼めますか?

研究者などの学識経験者にお願いする場合は紹介者を通じて行うのが一般的ですが、最近は大学などで学外連携拠点を設置しているケースもあります。また環境省中部地方環境事務所や環境パートナーシップオフィスなど公的機関に相談することもできます。いずれの場合も、日時や場所、何を話してほしいか、費用、条件などをできるだけ明確にして探すことが重要です。



プログラム

ストーリーで参加者をひきつける

いくつかの話題提供によるインプット、野外活動、ワークショップやディスカッションなどから構成する場合、全体の流れが参加者に見えるようなストーリーがあるとわかりやすくなります。参加者はそれぞれの活動にどんな心構えで参加すべきかがわかるからです。



人あつめ

参加してほしい人に声をかける

どんな人に集まってほしいかを明確にしたら、その人たちに声を掛けます。方法はさまざまで、直接一人ひとりお願いする場合もあるでしょうし、広報誌やWebページで不特定多数に発信することもあるでしょう。イベント規模や対象属性によって効果的なアプローチのデザインが必要です。また、イベントはオンラインを活用したり、既存の会合に合わせて実施することも考えられます。



実際に始めるために

学びの場づくりには、「人」、「もの」、「こと」、「金」が必要です。いずれも「協働」のノウハウです。



誰が必要？ 人脈やネットワーク

学び合いの場を作るにあたっては、参加者にとって新たな知識や知見のインプットがかかせません。そうした情報をもっている専門的な人、情報を伝えることに秀でた人などが必要です。また、話し合いをうまく作り出せるファシリテーター、全体を効果的にまとめるコーディネーター、有効なコンテンツのデザイナーなど、必要に応じてお願いできる「つて」があると企画が広がります。



どんなものが必要？ 特徴ある開催場所やツール

まず参加者に集まってもらうための「場所」が必要です。大勢の人が集まるなら会議室や講堂など、広めの会場を準備しなければなりません。プロジェクターやパソコン、マイクなどの音響設備、机やイスなどの什器に加えて、ワークショップやゲームの道具類も準備する必要があるかもしれません。野外では衣類や作業・観察道具の他、安全にも心配りが必要です。お昼をまたぐようなら昼食も考えておきましょう。



どんなことが関係？ 効果・情報発信・つて

そのイベントは、なぜ、その時期に、その場所で、そのテーマで開催するのか、ということも考えておきましょう。他のイベント、町内の集まり、役所や学校の動きなど、関係している「こと」があるかもしれません。そうした「つて」をたどれば「人」、「もの」、「金」を融通してもらえるかもしれません。



いくら必要？ 開催資金

人件費、消耗品、印刷費、広報費、講師謝金、交通費などのコストをまかなう方法が欠かせません。公的な予算や助成をいかに活用するかが大切です。そのためには十分な説明を権限者に行う必要があります。また企業への依頼も考えられます。「企業が行っているSDGsをお手伝いします」という説明のしかたもあるかもしれません。



学び合いの場で大切なことは、たくさんあります。最も重要なのは、一方向の講演や一過性のイベントにならないよう、一人ひとりが主体的に持続的に参加できるようにすることです。そのため、次の3つをプログラムに組み込んでみましょう！

- ①何を目的にどのような成果を目指すのか**趣旨とゴールを明確**にし、全員が理解してスタートします。
- ②年齢・性別・職業などに関係なく対等で互いを尊重しながら話し合いができるよう、**参加のルール**を皆で決めます。
- ③初めての人どうしても心を開き、和気あいあいと話せるよう**アイスブレイク**を取り入れます。



学び合いの場づくり 企画ワークシート

必要な「人」「もの」「こと」「金」を想定しながら、イベント企画のアイデアをメモしてみよう。

学びの目標

何のために開くのか、どんな持ち帰りをしてもらうのか、イメージしよう
イベントを開くこと自体は、目標ではありません。

想定される参加者

だれに来てほしいのか、持ち帰った先も考えてイメージしよう。

テーマ

目的や分野を表すキーワードをテーマに使ってみよう
キャッチーで短いタイトルを考えよう
サブタイトルも活用しよう。

●企画内容

●必要なもの

日時・場所

どんな時期がよいか、週末か平日か。場所のイメージは。

- もの 場所は室内か、室外か。広さの規模もイメージしよう。
- こと 他のイベントとの連携、時期やタイミングも考えよう。
- 金 会場費のことも頭の隅に置いておこう。

プログラム(人さがし)

どんな分野のどんな内容で行うか、具体的な内容を考えよう。
○講演?
○話題提供?
○ディスカッション?
○ワークショップ?
組み合わせも重要。
併せて登壇者もイメージしよう。

- 人 誰にお願いすればよいか。登壇者の人選から企画が始まることもある。
- こと 時間枠や全体の流れをイメージしてみよう。
- もの しつらえやワークショップの道具もアイデアがあれば考えておこう。
- 金 登壇者が遠方の方だったり、有名人だったりだとするとお金がかかる。ある程度考えておこう。

主催と協力者(共催・後援)

単独で開催するのか、協働して行うのか、協力者はあるのかなどを考えておこう。

- 人 協力してもらえる組織はどこか? 誰か相談できる人はいるか? 思いついたらメモ。
- 金 ただでは協力してもらえないこともある。

人あつめ(参加者)

どんな方法で参加者を募るか、イメージをもとう。

- 人 学校や町内会など、募集であてになる組織はあるか。
- こと チラシを作ったり、Webに載せたりと、方法もいろいろ。
- 金 メディアにうまく取材してもらえばお金もかからない。

事例1 海岸ごみからSDGsを考える

中部地方ESD活動支援センター主催
中部2021年度SDGs社会教育～実践セミナー

STEP 1 企画をする!

▼目標・テーマなど

学びの目標 海岸ごみの体験からSDGs時代の担い手として
できることを考える。

想定される参加者 地域の若者、流域に位置する企業関係者

テーマ

ローカルSDGs気づきから
担い手づくりへ
～海ごみをまるっと考える。

▼企画内容と必要なもの

日時・場所
秋の土曜日、六渡寺海岸

ものこと金 海岸ごみ清掃を体験する、地元の活動と連携を検討。
地域の公民館は使えないか。

プログラム(人さがし)
午前中は海岸で
ごみ清掃と分別、
午後はそれらのごみについての
解説とSDGsワークショップ

人 海岸ごみの専門家に話をしてもらおう(地元大学につてあり)。
SDGs担い手の意味について解説していただく識者を
東京から呼びたい。

もの SDGsワークショップで円形シートを使うと良いかもしれない。
中心に選んだごみを置き、縁に貼ったSDGsタイレとつないで
議論するなど。

金 東京から演者を呼ぶ場合は旅費等を算入すること。

主催と協力者(共催・後援)
地元活動団体に協力を依頼

ものこと 地域ESD拠点に登録している「PECとやま」に協力を
依頼、地元のネットワークを頼る。

人あつめ(参加者)
地元活動団体に協力を依頼

人 地域ESD拠点に登録しているPECとやまに協力を依頼。
金 地元の新聞社に主催してもらおうことを検討。

STEP 2 実践してみた!

●テーマ：海岸プラごみ清掃から流域のローカルSDGs
の担い手づくりへ

●日時：2021年10月30日(土)11:00～16:30

●プログラム

11:00～ 現地視察(オンライン中継)

六渡寺海岸(富山県射水市)にて視察体験

●活動:徒歩で六渡寺海岸へ、視察、ごみ拾い体験

13:30～ ワークショップ(オンライン併用)

●はじめに…本セミナーの内容について説明

●インプット

プラスチックの功罪、海ごみからのSDGsと市民意識
楠井 隆史(富山大学名誉教授)

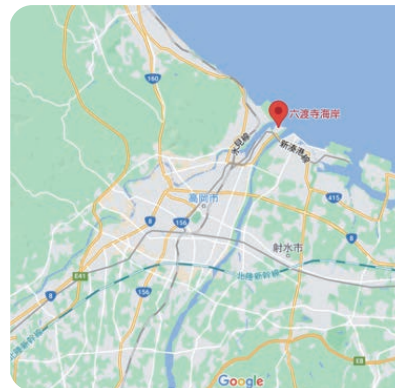
現地視察の振り返り、海岸のごみ清掃活動について
境 信誓(六渡寺自治会長)

●グループワークショップ

六渡寺海岸のプラごみ問題、どのようにつながっている?
コーディネーター 原 理史(中部地方ESD活動支援センター)

●総括コメント

実践活動の学びを持続可能な社会に活かす地球市民
佐藤 真久(東京都市大学教授)

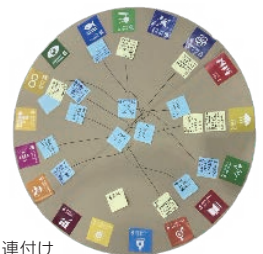


<https://www.pref.toyama.jp/1706/kurashi/kankyouushizen/kankyou/mizuhozen/2mamorou/group/23.html>

当日はお天気にも恵まれ、高校生や地元企業の職員も参加して海岸ごみを拾いました。肥料の散布用プラスチックカプセルの粒がたくさん打ち上げられていたのは驚きでした。

ワークショップもいろいろな議論ができ、オンラインでは海外からの参加もありました。佐藤先生からも素晴らしい総括をいただきました。

ワークショップでプラごみの問題を関連付け



事例2 食から気候変動を考える

中部地方ESD活動支援センター主催
2023年度SDGs社会教育～実践セミナー

STEP 1 企画をする!

▼目標・テーマなど	学びの目標 気候危機適応を身近な食の観点からSDGsの取組につなげる意識を養う。	テーマ 飯)ワークショップ 「食」から学ぶ気候危機適応とSDGs地域づくり
	想定される参加者 サステナ政策塾(中部ESD拠点協議会主催の研修コース)の塾生を含む一般市民	
▼企画内容と必要なもの	日時・場所 2023年11月25日(土) 伊勢湾、三河湾流域沿岸など	ものこと金 食と気候変動と言えば海産物、漁協さんに協力いただくことはできないか。会場は海岸近くの公民館などが考えられる。
	プログラム(人さがし) ・講演によるインプット ・現地視察 ・気候変動 ミステリーワークショップ	人 地元の漁協さん、愛知県の水産試験場、東海農政局に頼めないか。当てにしている気候変動適応の専門家は国際会議に行っているかもしれない、オンライン登壇を頼めるか。 こと金 昼ご飯は海苔など現地食材でみんなで作ったらどうか。実費徴収が必要。 こと人 ワークショップは専門家の助言をもとにカード作成が必要。
	主催と協力者(共催・後援) 地元活動団体に協力を依頼	こと 2団体共催で、講演とワークショップは中部地方ESD活動支援センター、視察と塾生募集はサステナ政策塾で。
	人あつめ(参加者)	こと人 サステナ政策塾の塾生、他、WebやSNSで広報、付き合いのある地元の高校や大学を通じて声かけ。

STEP 2 実践してみた!

- テーマ：食べ物が変わる?! 気候変動と私たちの暮らし
 - 日時：2023年11月25日(土) 10:00～16:00
 - 場所：愛知県常滑市鬼崎漁港、鬼崎漁業協同組合会議室
 - 参加方法：現地参加30名定員、オンライン(午前のみ)
 - 費用：参加無料 ※現地参加者の昼食は実費負担
 - プログラム
- 10:00～ 1. 話題提供「食の変化と気候変動」
- 「森里川海からとれる食、気候変動でどう変わる?」
井上 俊樹(農林水産省東海農政局企画調整室長)
 - 「伊勢湾三河湾の水産資源の移り変わり」
植村 宗彦(愛知県水産試験場漁業生産研究所主任研究員)
 - 「農林水産業の現場から、鬼崎漁業組合」
平野 正樹(鬼崎漁業協同組合参事)
 - 「気候変動影響と適応対策」
杉山 範子(東海学園大学教授) ※オンラインの予定が現地参加に
- 12:00～ 2. 昼食と現地視察—海苔養殖関連施設等の見学、昼食—
コーディネーター 古澤 礼太(中部ESD拠点・サステナ政策塾)
- 14:00～ 3. ワークショップ「食」から学ぶ気候変動適応のSDGs地域づくり
総合ファシリテーター 古澤 礼太(中部ESD拠点・サステナ政策塾)



サステナ政策塾の塾生や温暖化防止活動推進員、NPOの関係者なども参加して、充実した学びの場となりました。午前中の講演、昼食と視察、ワークショップにも熱心に参加いただき俯瞰的に関連付けて考える「システム思考」の向上に役立つ場となりました。

昼食は地元海産物の鍋と海苔のおにぎりをみんなで作り、とても楽しい食事会となりました。カニが美味しかった!

学びを盛り上げる素敵な方法

学び合いの方法には、マンガを使った学び、ゲーム感覚で議論を行うワークショップ、オンラインを活用したネットワークフォーラムなど、さまざまな方法があります。

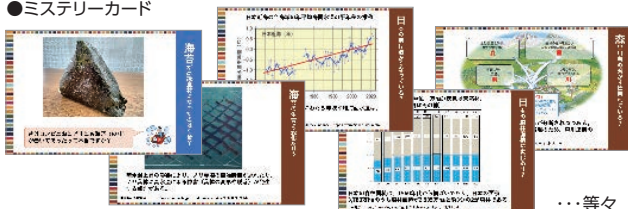
方法1 気候変動ミステリーワークショップ

2023年度SDGs社会教育～実践セミナー

最初に気候変動に関するミステリーのお題が出ます。例えば「最近稲の出来が悪くなっている。なぜだろう?」。そのミステリーを解くために、グループで議論しながら、「24枚1組のミステリーカードを論理的に関連付けて並べます。

このグループワークを通じて、気候変動によりどんな現象が発生しているかを把握し、気候変動にはさまざまな事柄が複雑に絡み合っていることを学びます。

●ミステリーカード



…等々



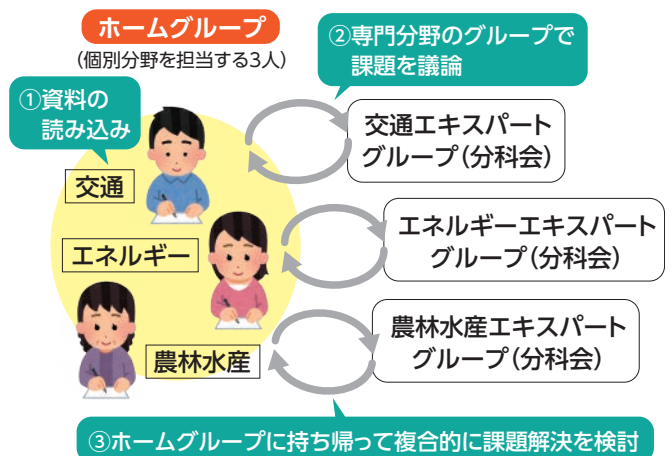
気候変動に関するさまざまな事実が1カード1ファクトとして24枚～30枚配られる。

ミステリーカードの関連性を議論して構造化する。並べて線や矢印を記入し、説明を加える。

方法2 脱炭素まちづくりジグソーワークショップ

2022年度SDGs社会教育～実践セミナー

交通、エネルギー、農林水産など、異なる分野の担当者から成る3人のグループを作ります。はじめに気候変動や地域に関わる資料「統計データ集」を読み込み、各グループで議論をします。その後、専門分野別のグループに分かれ、それぞれの分野の現状を分析し、批評します。再び、元のグループにそれを持ち帰り、地域の理想とする将来像を考え、実現するために必要な課題解決策を検討します。

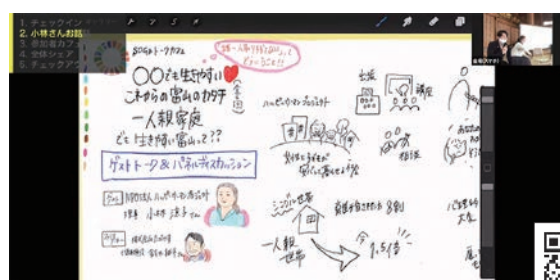


方法3 グラレコを使ったSDGsトークカフェ

SDGs OTERA Café (SDGsお寺カフェ)

地域のお寺とコラボし、身近な課題についてSDGsを通じて語り合う連続イベントを、助成金を得て開催。それぞれの課題に向き合う当事者や支援者・関係者から話を聞き、参加者同士でそこから感じたこと、これからしたくなったことなどを対話を通じて緩やかに共有しました。

会の様子を絵や文字で絵巻物のように記録する「グラフィックレコーディング」を取り入れ、対話を深めました。完成したグラフィックは冊子化、Web掲載し、課題の内実や対話の様子を広く伝えることにも活用しました。



会の詳細▶



方法4 共通様式を使ってオンラインSDGs交流

SDGs学生サミット(2019年度～2023年度)

遠く離れていてもオンラインでなら交流できます。SDGs学生サミットと銘打ち開催した交流会では、離れた別の大学の学生グループによるSDGsの取組発表、SDGs未来都市の職員による取組発表を元に、交流と議論を行いました。

そのとき、共通の土台としてSDGsとの関連を図示する様式を用いることで、いろいろな観点から具体的な議論を深めることができました。

コンポスト活動をしている学生グループのSDGs取組を、様式を使って模式図にした例



学習効果を測定するには

成果を活かすためには学習効果を考えることが必要です。目標は適切だったでしょうか。意図したきっかけ作りはできたでしょうか。意欲が高まったでしょうか。地域の未来を担うにふさわしい能力や態度に即して考える必要があります。効果を調べるには参加者のアンケートが有効です。

●ESDで身につけたい能力、態度

ユネスコではESDを通して身につけてもらいたい能力や態度について鍵となる8つの項目を挙げています。これらを元に、学習効果のアンケート項目を考えることができます。

能力・態度	ユネスコの項目	アンケート項目例(当てはまらない～当てはまる:5段階)
複雑な関係をまるごと見る	1)システム思考	1)複雑な問題の様々な要素の関わり合いを知ろうと思う。
様々な未来を考える	2)予測的	2)これからの持続可能な社会を考えて勉強しようと思う。
社会的行動基準を持つ	3)規範的	3)自分はどのように行動したらSDGsに合うか考えようと思う。
戦略的に計画を立てる	4)方略的(戦略的)	4)戦略的・計画的に考えようと思う。
互いを尊重して協力する	5)協働	5)他者の立場や意見を尊重し、協力するやり方を学ぼうと思う。
鵜呑みにしないで考える	6)批判的思考	6)問題について別の考え方や方法がないか考えようと思う。
自らを知り動く	7)自己認識	7)自分は何ができるか、「役割」を考えるようにしようと思う。
全体を見渡し解決を探る	8)統合的問題解決	8)関連する様々な課題を整理し、統合的な方法を考えようと思う。

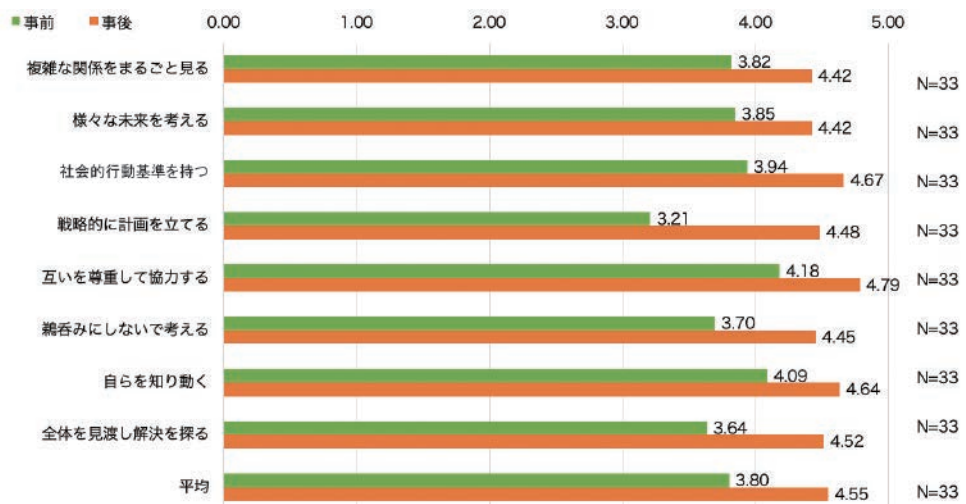
●学習効果を測定した例(2022年度学生サミット)

オンライン交流会の事前と事後でアンケートを取り、5段階で点数化した平均値を比較しました。それぞれアンケートフォームを用いて回答してもらっています。

事前の回答に比べて事後の回答の点数がすべての項目で高くなっており、「これからはそう考えていこう」という意向が形成されたことがわかります。交流会によってSDGs時代を担う人づくりの上での学習効果が現れたと考えられます。

5件法平均値

事前(これまでの態度)
事後(今後の意向)



出典:田開寛太郎・伊藤恭彦・原理史・清本三郎・富田夏子・福井弘道・杉田暁・古澤礼太・平川翼・川村真也(2023):ローカルSDGs指標に基づく施策議論プログラムのESD活用研究,「問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点」2022年度成果報告,文部科学省共同利用共同研究拠点中部大学中部高等学術研究所国際GISセンターに加筆修正

あ と が き

環境省と文部科学省の事業であるESD推進ネットワークでは、さまざまな分野でのESD推進を支援しています。中部地方ESD活動支援センターでは社会におけるESD推進を目的とした支援活動を展開し、令和3～5年度には、「学びあいプロジェクト」を実施しました。

プロジェクトでは年に3回の研究会、公開オンラインセミナー2回、公開現地ワークショップ1回、全国ESD推進フォーラム分科会などを開催し、人づくりのための学びのあり方について検討を進めてきました。その結果を元に地域社会でのESDの現場でヒントとなるよう作成したのがこのワークブックです。企業研修、生涯学習、地域づくりなどの現場で、何か一つでも皆さまのお役に立つ内容があれば幸いです。

検討にあたり、現地の関係者やその他支援をいただいた皆さまをはじめ、ESD推進ネットワークの関係者の皆さまに感謝します。特に東京都市大学の佐藤真久先生には、学術的背景をはじめとした専門的な助言に感謝いたします。

2023年12月 中部地方ESD活動支援センター
(環境省中部環境パートナーシップオフィス(EPO中部))
SDGs社会教育研究会WG

●参考情報一覧(2023年12月現在)

事例1：海岸ごみからSDGsを考える

中部地方ESD活動支援センターホームページ《ESD for 2030 学び合いプロジェクト》実践セミナーを開催しました
<https://chubu.esdcenter.jp/2021/11/12/4105.html>

事例2：食から気候変動を考える体験学習

中部地方ESD活動支援センターホームページ、《ESD for 2030 学び合いプロジェクト》地域づくりのための気候変動社会教育～学び合いの場①②&実践セミナーを開催
https://chubu.esdcenter.jp/hot_topics/2023manabiai

方法1：気候変動ミステリーワークショップ

○福井県ホームページ、福井県気候変動教育プログラム事業
<https://www.pref.fukui.lg.jp/doc/kankyoo/ee/kikouhendou-kyouiku-program.html>
基礎編「福井県版ミステリーワークショップ」

方法2：脱炭素まちづくりジグソーワークショップ

○福井県ホームページ、福井県気候変動教育プログラム事業
<https://www.pref.fukui.lg.jp/doc/kankyoo/ee/kikouhendou-kyouiku-program.html>
応用編「課題解決ワークショップ」

方法3：グラレコを使ったSDGsトークカフェ

○一般社団法人環境市民プラットフォームとやま(PECとやま)ホームページ、【実施しました】SDGsトークカフェ「〇〇でも生きやすい♡これからの富山のカタチ(全6回)」
<https://www.pectoyama.org/post/event200912>

方法4：共通様式を使ってオンラインSDGs交流

○環境省中部環境パートナーシップオフィスホームページ、「SDGs学生サミット」のYouTube動画を公開中
<https://www.epo-chubu.jp/epo-news/17840.html>
プログラムと資料DL、第1部 団体発表

地域づくりは人づくり、学びから未来へ

ESD 現場から学ぶ！ 学び合いの場づくりワークブック

●SDGs社会教育研究会WG

古澤礼太 中部大学国際ESD・SDGsセンター准教授、中部ESD拠点協議会事務局長
水上聡子 EPO中部運営委員、アルマス・バイオコスモス研究所代表
堺 勇人 EPO中部運営委員、一般社団法人 環境市民プラットフォームとやま(PECとやま)事務局長
原 理史 中部地方ESD活動支援センター、中部大学国際ESD・SDGsセンター研究員

●オブザーバー

環境省中部地方環境事務所環境対策課

●事務局

中部地方ESD活動支援センター(環境省中部環境パートナーシップオフィス(EPO中部))